

非文字資料研究の継承発展をめざして

非文字資料研究センター

センター長

福田 ア ジ オ

FUKUTA Ajio

2008年3月に、5年間の事業を達成して、私どもの神奈川大学21世紀COEプログラムは無事終了いたしました。21世紀COEプログラムの研究成果は、毎年発行した『年報人類文化研究のための非文字資料の体系化』に掲載すると共に、最終成果として20冊に及ぶ研究成果報告書を刊行いたしました。それらによって21世紀COEプログラムの目標は達成できたものと思っておりますが、非文字資料研究はそれで完了するものではありません。世界的研究拠点形成を目指すのが21世紀COEプログラムですから、COEとしての事業終了後にそれを継承発展し、研究拠点として活動することが当初から期待されておりました。私どもはすでに申請段階から、事業終了後にはそれを発展させる組織として非文字資料研究センターを設立すると表明しておりました。

2008年4月に非文字資料研究センターが日本常民文化研究所の付置として設立され、21世紀COEプログラムの事業を継承しつつ、さらに世界的な研究拠点になるべく活動を開始いたしました。21世紀COEプログラムに比較するとずいぶん小さいですが、COEの施設をそのまま継承し、大きな大学予算を得て、研究に取り組んでおります。基本は非文字資料に関する共同研究を行うことです。COEから引き継いだ課題による共同研究に、新たな課題を加えて、6つの共同研究を展開しています。いずれも3年間を研究期間として、成果を挙げるべく活動しております。21世紀COEと同様に、これらの共同研究に関わっている研究者の個別論文を収録し、発表していく媒体として『年報非文字資料研究』をCOEから継承して引き続き発行していくことにいたしました。その第1号が本書です。21世紀COE時代に年報は4号まで発行しておりましたので、その継承発展を表示するため、その号数を引き継ぎ、今回の年報を第5号といたしました。

21世紀COEプログラム終了時に、私どもが課題として引き継いだのは、非文字資料研究に関する世界的ネットワークを形成して、研究の世界的拠点になることでした。この点は、21世紀COEプログラム委員会による事後評価においてもその期待が表明されておりました。年報は私どもセンターの研究員の研究成果、研究協力者、奨励研究を受けた若手研究者の研究成果を収録しますが、加えて21世紀COEの関係者の非文字に関する研究成果も積極的に掲載することにしております。さらに、世界各地の非文字資料研究を行っている研究者にも研究成果発表の場を提供し、この年報から世界の非文字資料研究が発展することを夢見ております。世界各地の非文字資料研究者の皆様のご寄稿をお願いいたします。その場合、日本語のみでは不可能なことは明らかです。年報では、日本語のみではなく、英文の論文、中国語の論文も収録し、掲載していくことを考えております。あるいはフランス語

やドイツ語，韓国語の論文も収録して参りたいと思います．是非，世界各地の非文字資料研究者，また研究機関の皆様にご支援とご支持を賜りたくお願い申し上げます．

2009年3月